様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年０５月１１日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：１９５２０２３９
研究課題名（和文）　初期「新フランス評論」誌と同時代文芸誌
――「詩と散文」誌との関係を中心に――
研究課題名（英文）　The Early *Nouvelle Revue Française* and its contemprary literary magazines (such as *Vers et Prose* in particular)

研究代表者
吉井　亮雄（YOSHII Akio）
九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号：４０２００９２７

研究代表者の専門分野：
科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学
キーワード：仏文学、新フランス評論、誌と散文、アンドレ・ジッド、ポール・フォール

１．研究計画の概要

報告者は，すでに科学研究費補助金による２つの研究――「アンドレ・ジッド草稿研究」および「初期『新フランス評論』誌とフランス語圏ベルギー文学」――をつうじて，未刊書簡をはじめとする多数の文献や資料を渉猟し，これによって 20 世紀初頭フランスの文学環境にかんする実証的知見を深めた。とりわけジッドが 1909 年に創刊した「新フランス評論」誌は一貫して主要な研究対象であった。

上記の実証的蓄積をつうじて「新フランス評論」誌創刊前後のフランス国内外の文学交流の重要性を強く認識したことが本研究課題の着想源となっている。周知のように「新フランス評論」が編集方針のひとつとして標榜したのが 20 世紀の新たな文学理念の確立であった。外国文学を積極的に受容・紹介したのもその一環であったが、国内的には「世紀末象徴主義との決別」という面を強く打ち出していた。ポール・フォール主宰の「詩と散文」(1905 年創刊）をはじめ、いくつかの文芸誌が象徴主義の継承を謳ったのとは対蹠的な編集方針だったといえよう。だが実際には、アンドレ・ジッドら「新フランス評論」グループはこれらの文芸誌とは相当に密接な関係を保ち、頻繁に情報を交換しつつ、ときには相互に作品を提供しあったのである。

本研究の目的は、このように理念と現実とが複雑に錯綜する同時代文学環境の具体相を実証的に考究し、あわせて、第１次大戦を機に象徴主義諸誌が相次いで消滅した後も「新フランス評論」誌が如何にして存続し新たな発展・成長期を迎ええたのかを探ることにある。

まずは「詩と散文」誌以外にも，編集者間の人的繋がりをつうじて「新フランス評論」誌と交流のあった同時代文芸誌類の確定から始め，次いで，主要執筆者による著作・回想録など印刷文献にくわえ，彼らがジッドと交した書簡も参照する。これらの書簡をはじめ未刊行の資料はその多くが複製不可のため，とりわけ初年度ー第２年度はフランス本国での実地調査が大きな比重を占める。以上の作業成果にもとづき最終年度では，研究課題にかんし「具体的かつ実質的な概観の提示」を目指す。

２．研究の進捗状況

資料調査・分析の作業は各年度とも順調に進んだ。

本研究課題が対象とする時期（一応の区切りとして 1904 年からの 10 年間）に刊行され、かつ「新フランス評論」グループと何らかの関わりがあったフランス内外の文芸誌については、関連書誌作成などの予備的作業にもとづき、掲載テクストの総体的分析によって各誌の基本的な編集方針や文学的主張の傾向を探るとともに、未刊行の文献や資料の調査を継続的に行った。

なかでもとりわけ重要な同時代文芸誌「誌と散文」にかんする未刊行の文献や資料の閲覧・筆写のために、フランスでの現地調査を５度にわたって行い（主要な訪問機関はパリ大学附属ジャック・ドゥーセ文庫とフランス国立図書館の２カ所)、両誌の交流の実態をかなり正確なかたちで把握することができた。その作業成果の一端として、ジッドと「詩と散文」主宰者ポール・

フォールとの間で交わされた往復書簡を解題・付注を添えて印刷公表した。

３．現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

計５度におよぶフランスでの現地調査により、計画していた資料の参照・閲覧はすべて順調に完了した。とりわけジッドが同時代の文学者と交わした書簡をはじめとする未刊資料の閲覧・筆写が、旧知のフランス人ジッド研究者の協力を得て、予定よりも早く終了したことは大きい。この作業終了を受けて、当該資料にもとづく研究課題の分析・統合も進み、次項で述べるように、新たな研究の展望もひらけた。

４．今後の研究の推進方策

上記研究の進展につれて、「新フランス評論」誌をとりまく同時代文学環境の把握のためには、「誌と散文」誌との関係にとどまらず、他の象徴主義文芸誌との関係、さらにはこれら象徴主義文芸誌間の交流も不可欠の要素として浮かび上がってきた。たとえばジャン・ロワイエール主宰の「ラ・ファランジュ」誌（1906〜1914 年）は、執筆陣は「新フランス評論」「誌と散文」としばしば重なるものの、その文学的な方向性は両誌いずれとも相当に異なっている。このように象徴主義継承の是非という単純な二項図式をこえて複雑にからみあう同時代文学史の具体相を、現研究課題の成果を基盤にすえつつ、さらに大きな射程のなかで考究する。この計画は、平成 22 年度より３年間にわたり科研費新規課題（最終年度前年度応募課題）として遂行する予定である。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

① 吉井亮雄「アンドレ・ジッドとポール・フォール（2)」、『ステラ』第 28 号（査読有）、九州大学フランス語フランス文学研究会、2009 年 12 月、163-178 頁.

② 吉井亮雄「『新フランス評論』創刊百周年――アンドレ・ジッド関連の出版・行事を中心に――」、『仏文研究』第 40 号（査読有）、京都大学フランス語学フランス文学研究会、2009 年 10 月、1-12 頁.

③ 吉井亮雄「アンドレ・ジッドとポール・フォール」、『ステラ』第 27 号（査読有）、九州大学フランス語フランス文学研究会、2008 年 12 月、1-21 頁.

④ 吉井亮雄「ジッドの『アンリ・ミショーを発見しよう』――1941 年のニース講演中止をめぐって――」、『仏文研究』第 39 号（査読有）、京都大学フランス語学フランス文学研究会、2008 年 10 月、123-146 頁.

⑤ 吉井亮雄「ジッド『オイディプス』校訂版をめぐって」、『ステラ』第 26 号（査読有）、九州大学フランス語フランス文学研究会、2007 年 12 月、165-176 頁.

〔学会発表〕（計１件）

〔図書〕（計１件）

① Claude MARTIN - Akio YOSHII, *Bibliographie chronologique des livres consacrés à André Gide (1918-2008).* Lyon : Centre d'Études Gidiennes, janvier 2009, 149 pp.